

# 私の町「鳳」のおはなし

KMテクノソリューションズ 南側晃一

## 鳳地域と浜寺公園

私が生まれ育った町は、堺市の鳳西町3丁である。地域の愛称は新在家（しんざいけ）という。鳳は現在、北町・南町・東町・西町の4つに区分されている。西町はさらに1丁・2丁・3丁に分かれる。

もともと鳳には、大鳥（おおとり）・北王子（きたおうじ）・長承寺（ちょうしょうじ）、野代（のだい）の4つの村があった。大鳥村は現在の北町、北王子村は東町、長承寺村は南町、野代村は西町2丁である。私の村である西町3丁は北王子村からの分家であり、新しくできた村という意味で「新在家」と名づけられた。

私が生まれた昭和30年代の新在家は、小さな小川にはメダカやタニシが生息し、初夏にはホタルが飛び交う、とてもどかな地域であった。新在家の西方には大阪湾に臨む浜寺公園が立地し、夏は海水浴で賑わっていた。

浜寺の地は、縄文時代から人が定住していたようで、海岸部から東部の丘陵地にかけては大集落の遺跡が随所に存在する。弥生時代以後は、熊野・紀州に通じる街道の風光明媚な要所となったが、明治に入りいち早く鉄道が通じ、交通の便が良い所から快適なリゾート地、そして居住地として発展した。

戦時中は非常時の名のもと松林の保護どころか、資源の少ない日本の国情から浜寺の松は「松の根から採れる松根油が、ガソリンや機械油として使えるのではないか」ということで伐採されるようになった。しかし、代用品としての効果や生産効率が悪く、いつの間にかうやむやとなって幸いにも松の木の根絶にはいたらなかった。

戦争も日本の敗戦で幕を閉じアメリカ軍の日本統治が始まると、風光明媚な公園は米軍将校とその家族たちの住宅として接收され、松林内には白塗りの住宅・チャペル・シアターが建ち並び、浜寺公園は大きく変貌した。

昭和36年に工業地の造成のため大阪湾が埋め立てられ、海水浴場が閉鎖された。その代替として昭和38年に府営の浜寺プールが「東洋一の規模を誇るプール」としてオープンした。当時私は小学生であり、夏休みには一日中浜寺プールで遊んだものであった。



浜寺公園の5,500本の松林

## 大鳥大社

和泉の国の一之宮である大鳥大社は、御祭神を日本武尊（やまとたけるのみこと）と大鳥連祖神（おおとりのむらじのおやがみ）の二柱とし、同じく式内社の大鳥北浜神社・大鳥美波比神社・大鳥井瀬神社・大鳥羽衣浜神社と併せて大鳥五社明神と呼ばれている。社伝によると、日本武尊が東夷征討の帰途、伊勢で亡くなった際、その屍は白鳥となって飛び去り、大和国琴引原から河内国古市を經由して、この地に留まったので社を建立したといわれている。

大鳥大社は大鳥(鷲・大鷲)神社の総本社としての格を持ち千葉県柏市の大鳥神社を始めとして全国各地の神社に分祠されている。また、大鳥大社は、白鳥伝説が世に広まった天武天皇から元明天皇の頃に創建されたのではないかと云われている。

現在でも大鳥大社の境内は14万9,500平方メートルもある広大な面積を有している。この大鳥大社の森は、伝説によると白鳳がこの地にとどまり神社を創建したさいに一夜にして種々の樹木が繁ったと云うことから「千種の森（ちぐさのもり）」という別名がある。

日本の神社本殿の造りで最も古い建て方をしている「平入形式」は伊勢神宮であり、「妻入形式」は出雲大社である。大鳥大社の本殿は、この出雲大社の次に古い建て方の形式をとっている。その大鳥大社の次に古い形式の建て方をしている神社が大阪の住吉大社である。つまり、大鳥大社の本殿は「妻入形式」として一番古い出雲大社形から、その後に変化してゆく住吉大社形の間の形式であり、神社建築様式の貴重な文化財である。そのような貴重な文化財だけに雷火で焼失した本殿はすぐに復旧が計られ、明治42年に古式通りに復元再建された。

大鳥大社は古くから文武の神としてあがめられ、武家の信頼が厚く平清盛・重盛父子も平治元年(1159)に熊野参詣の途中ここに立ち寄り参拝して和歌を詠んだといわれている。

## 鳳だんじり祭り

泉州といえば「だんじり祭り」が有名である。岸和田の「だんじり祭り」が最も有名であるが、鳳だんじり祭りは400年以上の歴史があり、岸和田だんじり祭りよりも古い。1592年には五穀豊穰祈願として8月に行われていたが、1986年（昭和61年）より10月の第1金曜日から土、日と3日間行われるようになった。

鳳のだんじり祭りは、古くは6ヶ村（大鳥、野田、新在家、北王子、野代、長承寺）の6台のだんじりが、鳳商店街を全力疾走する「走る祭り」であった。その後、上（かみ）、富木（とのき）、石橋（いしばし）、元町（もとまち）の4台のだんじりが加わり、現在10台で曳行している。最近では岸和田だんじり祭りの影響を受けて、「走る祭り」から「やり回しの祭り」へと変化してきている。やり回しとは、曲がり角で方向転換する際に、勢い



大鳥大社の御本殿



大鳥大社の「妻入形式」



大鳥大社の日本武尊の銅像

よく走りながら直角に向きをかえることである。

鳳のだんじりが走行する鳳商店街は、熊野街道の一部である。熊野街道は、京から大坂を経て熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）への参詣に利用された街道の総称であり、紀伊路とも呼ばれた。また、説教浄瑠璃の小栗判官にちなみ小栗街道とも呼ばれる。当初は、渡辺津から熊野までが一体として扱われたが、近世以後は紀伊田辺を境に紀伊路・中辺路と区分されるようになった。後者の中辺路は、ユネスコの世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として登録されている。



熊野街道（鳳～久米田）

さて、話を「鳳だんじり祭り」に戻す。鳳地区のだんじりの曳き方は2種類で、地回りと連合曳きがある。1日目の金曜日「宵宮」は、主に自町を曳行する「地回り」である。昔はご祝儀を頂戴するために自町を曳行したものであるが、最近では自町だけでなく隣接村と一緒に数台で曳行するようになってきた。2日目の土曜日「宮入」は、大鳥大社への宮入の後、鳳商店街を中心とする2 kmの直線コースを10台のだんじりが疾走する連合曳である。最後3日目の日曜日には、府道30号線（通称13号線）のパレードが行われ、西区役所前では堺市長や西区長からの挨拶と花束贈呈がある。

だんじりの型は、泉州地方では大別すると「上（かみ）だんじり」と「下（しも）だんじり」がある。鳳のだんじりは「上だんじり」が主流であった。しかし「上だんじり」は足元が狭いためにやり回しをすると転倒する。そのため、最近ではだんじりの買い替えに伴ってやり回しのできる「下だんじり」が増加した。鳳の祭りもかなり岸和田の影響を受けてきている。

わが村「新在家」は30年前に「上だんじり」を新調し、鳳の歴史と伝統を守っている。しかし、少子高齢化の影響は急速で、10年前には100人以上いたこども達が、最近では40名程度に激減した。世帯数400戸のわが村「新在家」は、若者の不足により「だんじり」の曳行や地域の活動が徐所に困難になってきている。

今後は地域のコミュニティーを活性化するための様々の取り組みが必要である。歴史と伝統のある鳳と浜寺の魅力を活かして、地域の活性化を図っていきたくと考えている。



上だんじり



下だんじり